

研究紀要 第23号

学ぶ意欲「～たい」を引き出す 学習指導の実践的研究

〈3か年継続研究：3年次〉

平成30年3月 留萌管内教育研究所

研究紀要 第23号

学ぶ意欲「～たい」を引き出す 学習指導の実践的研究

〈3か年継続研究：3年次〉

平成30年3月 留萌管内教育研究所

目 次

「発刊に当たって」

留萌管内教育研究所長 石 田 正 樹

I	研究の概要	1
1	研究主題	
2	研究主題設定の理由	
3	研究主題のおさえ	
4	目指す子ども像	
5	研究の視点	
6	研究の構造	
7	研究の計画	
II	本年度の研究	9
1	今年度の研究の視点	
III	研究協力員の実践	13
1	中学3年 国語科 「風景と心情—漢詩を味わう—」 天塩町立天塩中学校 福原富子 教諭	
2	小学6年 算数科 「比」 羽幌町立羽幌小学校 佐藤元希 教諭	
IV	研究の成果と課題	36

※ 参考文献リスト

あとがき

発刊に当たって

平成27年度から3か年で取り組んできた「学ぶ意欲『～たい』を引き出す学習指導の実践的研究」が、本年度をもって終了しました。

本研究の推進に当たっては、天塩中学校：福原富子教諭，初山別小学校：佐治慎吾教諭，羽幌小学校：佐藤元希教諭，北光中学校：大石晴之教諭の4名に研究協力員をお願いし，授業実践を通し研究の視点や内容について検証するために，研究員とともに共同研究という形で取り組んでまいりました。

前次研究までは，研究協力校の指定もさせていただいていましたが，管内の学校数が減少したことを考慮し本次研究では協力員のみとしたことや，福原先生（天塩中）や佐藤先生（羽幌小）は2年次目から協力員をお願いしたこと，大石先生（北光中）は学校の閉校を抱えていたり，佐治先生（初山別小）は小中連携事業や留萌連の大会で授業を公開したりするなど，4名の協力員の先生方には，多忙な中での会議への参加や検証授業の実施など，大変なご苦労をおかけしました。改めて厚く感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。

当研究所では，前次共同研究「活用力を向上させる学習指導」の成果と課題を踏まえつつ，全国学力・学習状況調査で明らかにされた留萌管内の課題の一つである「学習意欲」を研究対象としました。「主体的な学び」という視点では，見通しや振り返りの活動の工夫について，「思考力・表現力の育成」という視点では，伝える・交流する活動の工夫についての研究を深めてきました。新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」に一步でも近づける授業実践や研究内容を管内の先生方に分かりやすく発信してきましたが，十分とは言えなかったとも感じています。しかし，3年間の研究が蓄積・凝縮された「研究紀要」第23号には，校内研究や授業実践に役立つ内容や手掛かり，ヒントが詰まっていますので，既刊されている「研究紀要」第21・22号と合わせて，ご活用いただければ幸いです。

3年間の研究も今年で一つの節目を迎え，来年度から新たな研究をスタートさせることとなります。しかし，研究所の今後を考えたとき，これまでのような実践的研究では，限界があるとも感じているところです。留萌教育の充実・発展に資する研究所だからできる研究について，新たな展開もあるのではと研究所内で検討もしてきました。ただ，研究所員の体制が不確定な状況では，新たな方向性を模索しても多くの課題を残すこととなります。そうしたことも加味しながら，次の一步を踏み出していきたいと考えています。

終わりになりますが，本研究所の運営に当たり，快く研究員を送り出させていただいている所属校長をはじめとする教職員の皆様，そして，管理委員会，運営委員会，留萌教育局，留萌管内各市町村教育委員会，留萌管内校長会並びに教頭会など，関係機関の皆様方に，改めて深く感謝とお礼を申し上げ，発刊に当たっての挨拶とします。

平成30年3月

留萌管内教育研究所長 **石田正樹**

I 研究の概要



1 研究主題

2 研究主題設定の理由

3 研究主題のおさえ

4 目指す子ども像

5 研究の視点

6 研究の構造

7 研究の計画

1 研究主題

学ぶ意欲「～たい」を引き出す学習指導の実践的研究

2 研究主題設定の理由

今日的な 学校教育の 課題から

教育基本法の理念に基づいた教育改革が進められる中、平成26年11月に中央教育審議会に対して文部科学大臣より「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」の諮問文が出された。これを受けて、平成27年8月には教育課程企画特別会において論点整理が行われ、2030年の社会とその先の社会に生きる子どもに、どのような資質・能力の育成が必要なのか、学習指導要領改訂に向けた本格的な議論がされている。

この改革の特徴の一つとして「コンテンツ・ベースト（内容重視）から、コンピテンシー・ベースト（能力重視）へのパラダイム転換」が挙げられ、国際標準としての育成すべき資質・能力のうち思考力・判断力・表現力等のいわゆる「活用力」の育成は、最重要課題として学校教育に求められるものと考えられる。

これまでの 研究及び 管内の実態 から

本研究所では、これまで7次に及ぶ共同研究に取り組んできた。前次までは、「活用力を向上させる学習指導」についての研究を行い、成果と課題を明らかにしたところである。また、研究を進めるにあたっては、留萌管内の実態に合わせた教育現場で活用できる研究を推進してきた。

現学習指導要領では、学習意欲の向上と併せて学習内容の基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着とともに、それらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力等の育成を重視している。それと同時に、児童生徒がこれらを支える知的好奇心や探究心をもって主体的に学習に取り組む態度を養うことも重要とされている。

今回新たに研究テーマを設定するにあたり、昨年度までの研究の成果を生かしつつ、平成26年度に実施された全国学力・学習状況調査の留萌管内における質問紙調査の結果を踏まえ、「学習意欲」に視点を当てた実践的研究を推進することが、教育現場でも活用されるものと考えた。

道研連研究 主題との 関わりから

北海道教育研究所連盟（道研連）では、第15次共同研究において研究主題として、「実践的指導力の向上に関わる支援の在り方」を掲げ、平成26年度から3か年計画で継続研究を進めている。

教員の実践的な指導力の向上を図る研修を行うことを中心に進めているが、その研究内容には、「授業改善のための支援」があり、「思考力を育む授業作りの促進」など本研究所の研究とも関わる部分も多いことから、本研究を推進することにより道研連主題解明の一翼を担うことができると考える。

3 研究主題について

平成26年度に実施された全国学力・学習状況調査の質問紙調査において、留萌管内の状況は下記のような結果となっている。

全国学力・
学習状況調査の質問紙
調査から

平成26年度 全国学力・学習状況調査の質問紙の結果より(留萌管内)

	小学校質問紙→児童質問紙 (学校が回答) → (児童が回答)	中学校質問紙→生徒質問紙 (学校が回答) → (生徒が回答)
授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を児童に示す活動を計画的に行った。	80.0 % → 41.0 %	53.8 % → 25.5 %
学習の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に行った。	55.0 % → 38.3 %	38.5 % → 12.5 %

結果を見ると教師が思っているほど児童・生徒は「見通す」活動や「振り返る」活動を意識して行っていないことが分かる。

これらの点を踏まえ、各教科の指導に当たっては、子どもが学習の「見通し」を立て、学習したことを「振り返る」活動を計画的に取り入れることを通して、自主的に学ぶ態度を育み、学習意欲の向上につながると考えた。

見通し・
振り返り

「見通し」を立て、学ぶ内容や課題解決への筋道を示すことで「やってみたい」「考えたい」へ意欲の高まりにつなげていく。実際に解決した時には、解決したことを「話したい」という意欲となり、自力解決できなかった時には、何とか解決するために他の子の意見を「聞きたい」という意欲につなげることができる。その後解決できなかった子は、他の子の考えを聞いた後で「やってみたい」という意欲がわき上がる。そして授業終末の「振り返り」場面で、自分はその時間で何が分かって何が分からなかったのか再認識することで、次時の学習への「学びたい」という更なる意欲へとつなげることができる。と考える。

学ぶ意欲
「～たい」

「～たい」という学ぶ意欲を高める学習活動を工夫することによって、思考する喜びや楽しさを感じることができ、より主体的に課題解決に取り組む子が育つであろうと考え、今回のテーマを設定した。

〈参考資料〉

平成27年度 全国学力・学習状況調査の質問紙の結果より(留萌管内)

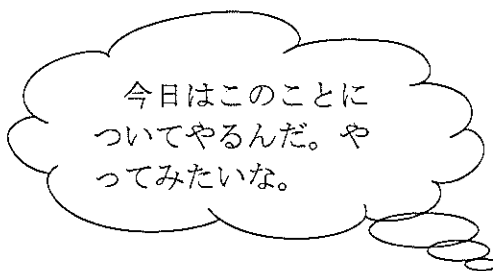
	小学校質問紙→児童質問紙 (学校が回答) → (児童が回答)	中学校質問紙→生徒質問紙 (学校が回答) → (生徒が回答)
授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を児童に示す活動を計画的に行った。	88.2 % → 52.9 %	66.7 % → 38.8 %
学習の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に行った。	76.5 % → 54.3 %	58.3 % → 15.6 %

平成28年度 全国学力・学習状況調査の質問紙の結果より(留萌管内)

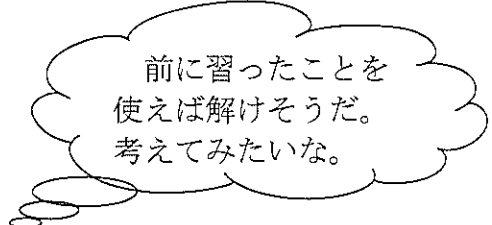
	小学校質問紙→児童質問紙 (学校が回答) → (児童が回答)	中学校質問紙→生徒質問紙 (学校が回答) → (生徒が回答)
授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を児童に示す活動を計画的に行った。	87.5 % → 58.4 %	83.3 % → 47.7 %
学習の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に行った。	68.8 % → 45.8 %	75.0 % → 19.6 %

4 目指す子ども像

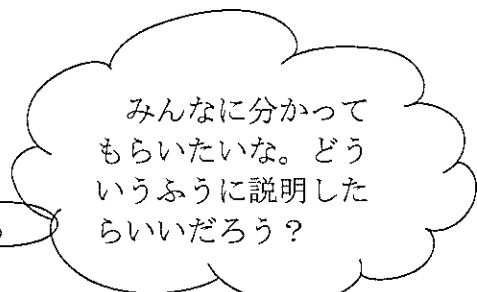
- 主体的に活動する子ども
- 思考したことを効果的に表現できる子ども



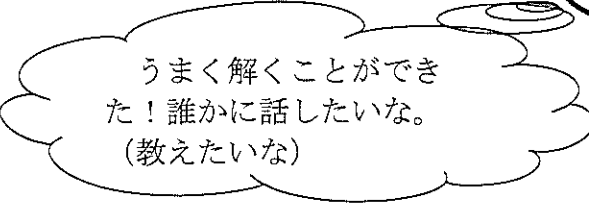
今日はこのことについてやるんだ。やってみりたいな。



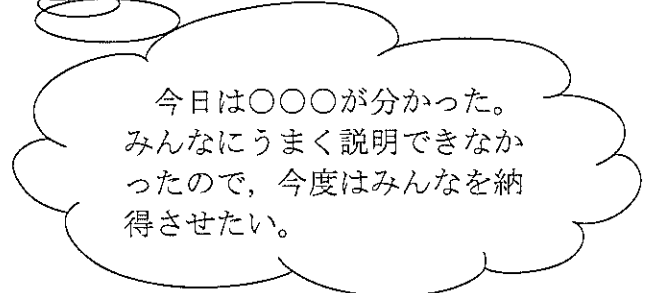
前に習ったことを使えば解けそうだ。考えてみたいな。



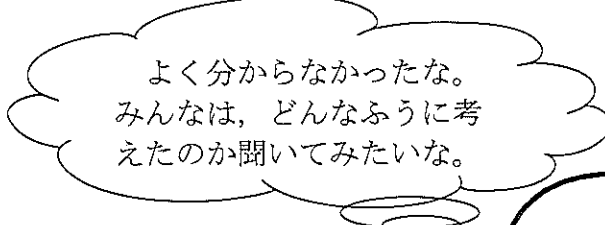
みんなに分かってもらいたいな。どういうふうに説明したらいいだろう？



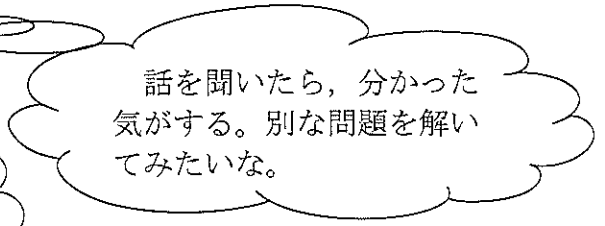
うまく解くことができた！誰かに話したいな。(教えたいな)



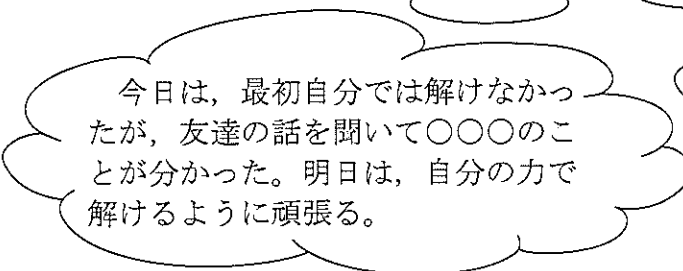
今日は〇〇〇が分かった。みんなにうまく説明できなかったのですが、今度はみんなを納得させたい。



よく分からなかったな。みんなは、どんなふうに考えたのか聞いてみたいな。



話を聞いたら、分かった気がする。別な問題を解いてみたいな。



今日は、最初自分では解けなかったが、友達の話聞いて〇〇〇のことが分かった。明日は、自分の力で解けるように頑張る。

5 研究の視点

教育基本法第六条第二項

「自ら進んで学習に取り組む意欲を高めることを重視」

学校教育法第三十条第二項

「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」

主体的に学習に取り組む態度

知識・技能の習得

思考力・判断力・表現力等の育成

今回の改訂では、教育基本法第六条第二項及び学校教育法第三十条第二項を踏まえ児童の学習意欲の向上を重視している。指導に当たって、児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れ、自主的に学ぶ態度をはぐくむことは、学習意欲の向上に資することから、今回特に規定を新たに追加したものである。

学習指導要領解説 総則編 第3章4

各教科等の指導に当たっては、児童の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童の言語活動を充実すること。

学習指導要領解説 第1章第4の2(1)

視点1

主体的な学びを生む学習活動

視点2

思考力・表現力を育成する活動の工夫

見通し

振り返り

キーワード

交流

6 研究の構造

研究主題

学ぶ意欲「～たい」を引き出す学習指導の実践的研究

目指す子ども像

- 主体的に活動する子ども
- 思考したことを効果的に表現できる子ども

仮説

学習活動に見通しをもたせ、メタ認知的振り返りを行う。また、伝える相手を意識させた表現する場を学習過程の中に位置付けて指導していくことで、子どもたちは、主体的に活動し、表現力を向上させることができる。

視点1

主体的な学びを生む学習活動

- ①学ぶ内容と解決の方法を見通す活動の設定と工夫（やってみたい）（考えたい）
- ②学びの過程や結果を振り返り、次の学びへとつなげる活動の設定と指導のあり方（学びたい）

見通し

振り返り

視点2

思考力・表現力を育成する活動の工夫

- ①学びをつなぎ、筋道を立てて考え、根拠や理由を示して伝える活動の工夫（話したい）（聞きたい）
- ②解決のきっかけをつかみ、考えを深めるための交流の工夫（聞きたい）（やってみたい）

伝える相手や目的を意識した表現

主体的に活動する子ども

7 研究の計画

(1) 研究期間

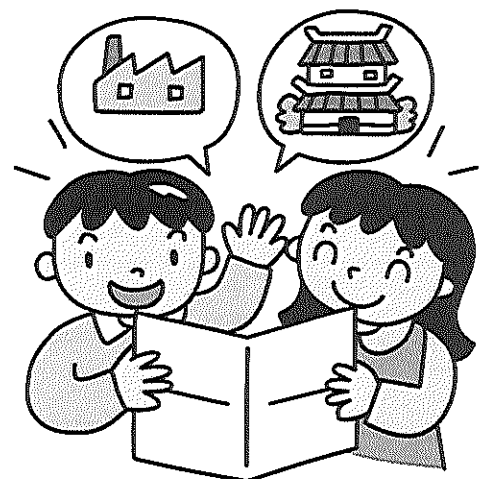
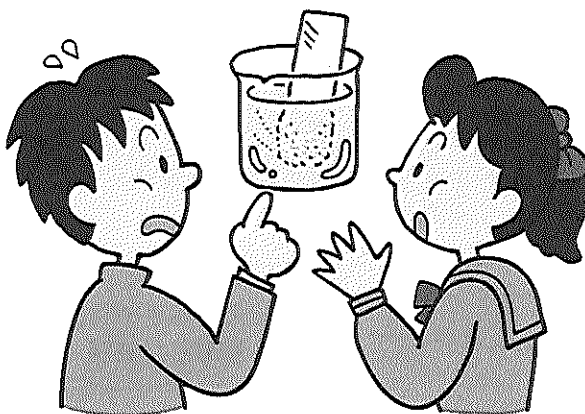
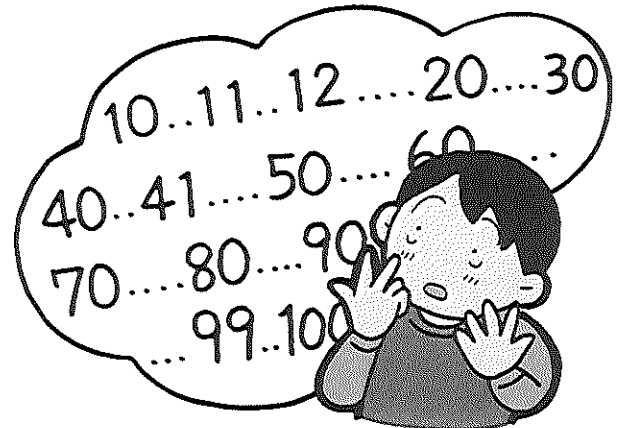
平成27年度から平成29年度までの3か年継続研究

(2) 研究領域

国語科，社会科，算数・数学科，理科

(3) 研究の方法

- ① 研究員会議や研究協力員との合同研究会議，道研連との共同研究などを通して，研究内容の検討や交流を行う。
- ② 研究協力員による授業実践を通して，研究内容についての検証を進める。
- ③ 研究のまとめとして，各年度末には研究紀要を発刊する。



平成27年度 (1年次)

視点1 主体的な学びを生む学習活動

- ① 学ぶ内容と解決の方法を見通す活動の設定と工夫
(やってみたい) (考えたい)
- ② 学びの過程や結果を振り返り、次の学びへとつなげる活動の設定と指導のあり方
(学びたい)

視点2 思考力・表現力を育成する活動

- ① 学びをつなぎ、筋道を立てて考え、根拠や理由を示して伝える活動の工夫
(話したい) (聞きたい)
- ② 解決のきっかけをつかみ、考えを深めるための交流の工夫
(聞きたい) (やってみたい)

平成28年度 (2年次)

視点1 主体的な学びを生む学習活動

- ① 学ぶ内容と解決の方法を見通す活動の設定と工夫
(やってみたい) (考えたい)
- ② 学びの過程や結果を振り返り、次の学びへとつなげる活動の設定と指導のあり方
(学びたい)

視点2 思考力・表現力を育成する活動

- ① 学びをつなぎ、筋道を立てて考え、根拠や理由を示して伝える活動の工夫
(話したい) (聞きたい)
- ② 解決のきっかけをつかみ、考えを深めるための交流の工夫
(聞きたい) (やってみたい)

平成29年度 (3年次)

視点1 主体的な学びを生む学習活動

- ① 学ぶ内容と解決の方法を見通す活動の設定と工夫
(やってみたい) (考えたい)
- ② 学びの過程や結果を振り返り、次の学びへとつなげる活動の設定と指導のあり方
(学びたい)

視点2 思考力・表現力を育成する活動

- ① 学びをつなぎ、筋道を立てて考え、根拠や理由を示して伝える活動の工夫
(話したい) (聞きたい)
- ② 解決のきっかけをつかみ、考えを深めるための交流の工夫
(聞きたい) (やってみたい)

学ぶ意欲「～たい」を引き出す学習指導

(5) 今年度の計画

	共 同 研 究	道 研 連 共 同 研 究
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画立案 ・研究協力員の確認と決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・道研連定期総会
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・合同研究会議に向けた準備 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研究に関する理論研究 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・第8回合同研究会議 (今年度の研究推進について) ・今年度の研究に関する理論研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道教育研究所連盟 夏季研究所員研修会 【7月27日～28日】
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研究に関する理論研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・第72回北海道教育研究所 連盟研究発表大会(日高大会) 【8月31日～9月1日】
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・第9回合同研究会議 (第1回検証授業指導案検討) 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・第10回合同研究会議 (第2回検証授業指導案検討) ・第1回検証授業 天塩町立天塩中学校 国語科 福原研究協力員 10月31日 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回検証授業 羽幌町立羽幌小学校 算数科 佐藤研究協力員 11月14日 ・第11回合同研究会議 (研究紀要作成に向けて) 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研究の成果と課題について ・研究紀要編集作業 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研究の成果と課題について ・研究紀要編集作業 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・第12回合同研究会議 (研究紀要編集と校正) ・留萌教育局との合同研修会 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要23号発刊 	

Ⅱ 本年度の研究



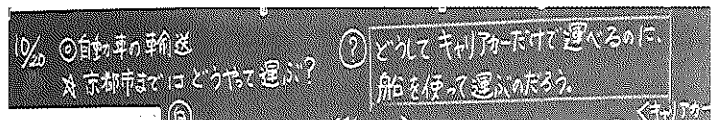
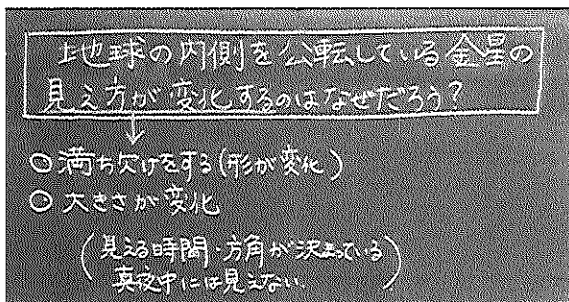
1 今年度の研究の視点

1 今年度の研究の視点

視点1 主体的な学びを生む学習活動

①学ぶ内容と解決の方法を見通す活動の設定と工夫 (やってみたい) (考えたい)

子ども一人一人が興味関心を高め、「やってみたい」という気持ちを高めるために、児童生徒の驚きや疑問から課題設定を行うことが有効であることは、前年度の検証授業から見られた成果である。



どちらの検証授業とも児童生徒の驚きや疑問から課題を設定していった。(社会科：児童とのやりとり、理科：前時の振り返りに書かれた疑問から) その結果、興味関心を高め、主体的に学習に取り組む様子が見られた。

○教師の関わり

課題をたてる段階での教師の関わり方をより考え、児童生徒自ら課題を見付け、解決していこうという気持ちを高められるようにしていく。また、子どもにとって与えられた課題ではなく、疑問として浮かび上がってくる課題となるような働きかけを考えていく。

引き続き、上記の内容を継続しつつ、より主体的な活動につなげるために、子どもたちに単元を通した学習活動の見通し、1単位時間の学習活動の見通し、課題を解決するための見通し等を教科の特性に合わせて適宜行っていくことで「やってみたい」「考えたい」という学習の意欲の高まりにつなげることができると考える。

◎単元を見通した提示(重点)

1年次目の国語科の検証授業において、単元最後の目標地点を提示したり、そこに至るまでの学習計画を提示したりすることで、意欲をもって主体的に学習する姿が見られたことから、教科の特性はあるが、積極的に行っていく。

<例>

・算数科

単元最後に取り組む発展問題を単元の最初の学習で提示し、単元の最後には、その問題が自力で解けるように、これからの学習を進めていくことを伝える。

・社会科

これから学習したことをもとに単元の最後に新聞を作ることを提示し、単元の最後に専門家に質問する機会があることを伝え、単元を進めて行く中で疑問に思ったことをメモしていくように知らせる。

②学びの過程や結果を振り返り，次の学びへとつなげる活動の設定と指導の在り方（学びたい）

1年次目の提案授業で「前時の振り返りをその後の授業に活用できる方がより効果的ではないか。」という反省が出たことから，昨年度は，前の時間に自分がどういう状態だったのかを振り返るために，授業冒頭に自分が書いたことを確認する時間を設定した。子どもたちの思考につながりをもたせられることや，教師による確認（チェック）を行うことで，記述内容の高まりが見られ，次の課題へとつなげることなどに有効であるという成果があった一方，「分かったこと」を書く場合，「まとめ」と同じことが振り返りに書かれることが多くあったという課題が出てきた。

③ 金星の見た方が変化するのにはなぜか金星の距離が変わり大きさが変化するのと光っている場所が変わり変化した距離だけをしていることがわかった。

学習の始めに前時の振り返りを確認する活動を行った。子どもたちの思考につながりをもたせるのに有効であった。

④ 船と分けていているのがあどろきく色を運ぶのにしてた。

教師による確認（チェック）を行うことで，記述内容が高まり，次の課題へとつなげることができた。一方で，「まとめ」と同じ内容が振り返りで書かれる場合もあった。

○授業冒頭での振り返りの確認

前の時間で自分がどういう状態だったのかを振り返るために授業冒頭に自分の書いたことを確認する時間を設ける。それを発表するかどうかは，教科の特性や単元の特性もあるため，特にこだわらないこととする。

また，振り返りの意義をしっかりと指導者側が押さえておくことが重要である。

本研究では，振り返りを行うことにより，子ども自身が自らの理解状態を把握した上で，次の学習へと進むことができる。また，子どもの理解状態を教師が把握し，適切に関わっていくことで，主体的な活動や，思考力・判断力・表現力の育成につなげることができる。と考える。

◎記述による振り返り（重点）

発達段階を考えると小学校3年生以上からの取組と押さえる。記述内容としては，自分の学習の取組を振り返り，自分の理解度を客観的に見た評価を記述させるようにする。

＜内容に関わること＞：学習事項の知識や技能

分かったこと，むずかしかったこと 等

＜理解の変容に関わること＞：既存の考えから新しい理解への変化

友だちのよかったところ，気付いたこと 等

＜学び方に関わること＞：学習した筋道や自分の思考・判断

自分が頑張ったこと，次にやってみたいこと 等

※情意面（感想）などを入れても効果的。

視点2 思考力・表現力を育成する活動の工夫

①学びをつなぎ、筋道を立てて考え、根拠や理由を示して伝える活動の工夫（話したい）（聞きたい）

これまでの提案・検証授業を通して、「伝える」という相手意識をもって思考し、自力解決を行っていくことは、表現力を高めていくのに効果的であることは、成果として確認している。ただ、1単元のみでの学習活動で向上させられるものではなく、学年を通して、目的や相手を明確にした表現活動を繰り返し行うことが大切である。

また、文章として書くことにはこだわらず、聞く相手を納得させる表現方法の工夫（学習形態など）を促すことで、「伝える」という相手意識をもった表現力の育成につなげることができると考える。

○目的意識や相手意識を明確にした指導（重点）

筋道を立てて考え、根拠や理由を示して話すことを、学年を通して繰り返し行うことで、話すことに慣れさせ、自信や活動への意欲をもたせる。

<活動例>

最終的に友達の考えを発表してもらうことを伝え、ペアで考えを交流する。

（相手の考えを全体交流で発表することを前提とすることで、相手に理解してもらおうという話し手の相手意識を高める。）

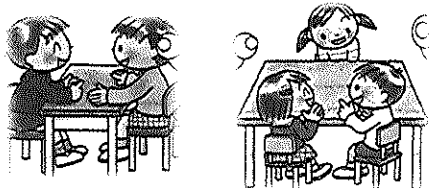
<目的に応じた学習形態>

①考えを伝え、確かめるために・・・ペアまたはトリオ

②考えを深めたり、広げたり、さらによりよい考えを発見していくために

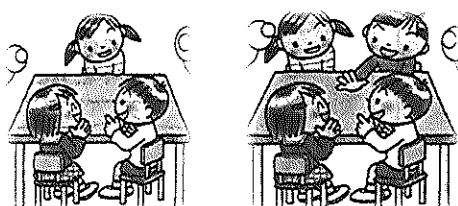
・・・トリオまたはグループ（4～6名）

考えを伝え、確かめるために・・・ペアもしくはトリオ



ペアもしくはトリオで考えを伝え合い、確かめ合って、全体の学び合いにつなげていく。

考えを深めたり、広げたり、さらによりよい考えを発見していくために・・・トリオまたはグループ（4～6名）



トリオもしくはグループで考えを伝え合い、深めたり広げたりしていく。さらに、考えを類型化したりして、よりよい考えにまとめていく。

②解決のきっかけをつかみ、考えを深めるための交流の工夫 (聞きたい) (やってみたい)

交流を行い、お互いにアドバイスし合うことで、表現力を高めることができることは成果として確認できているが、聞いていることが相手に伝わるような手立てを行うことで、「さらに聞きたい」という意識や「理解しながら聞く」という聞く力をさらに高めることができる考える。

また、自力解決で解決に辿りつけなかった子どもにとっては理解をする場として、解決できた子どもにとっては、自らの考えに自信をもたせたり、より深めたりする場として交流を行っていく。

○聞く意識を高める指導

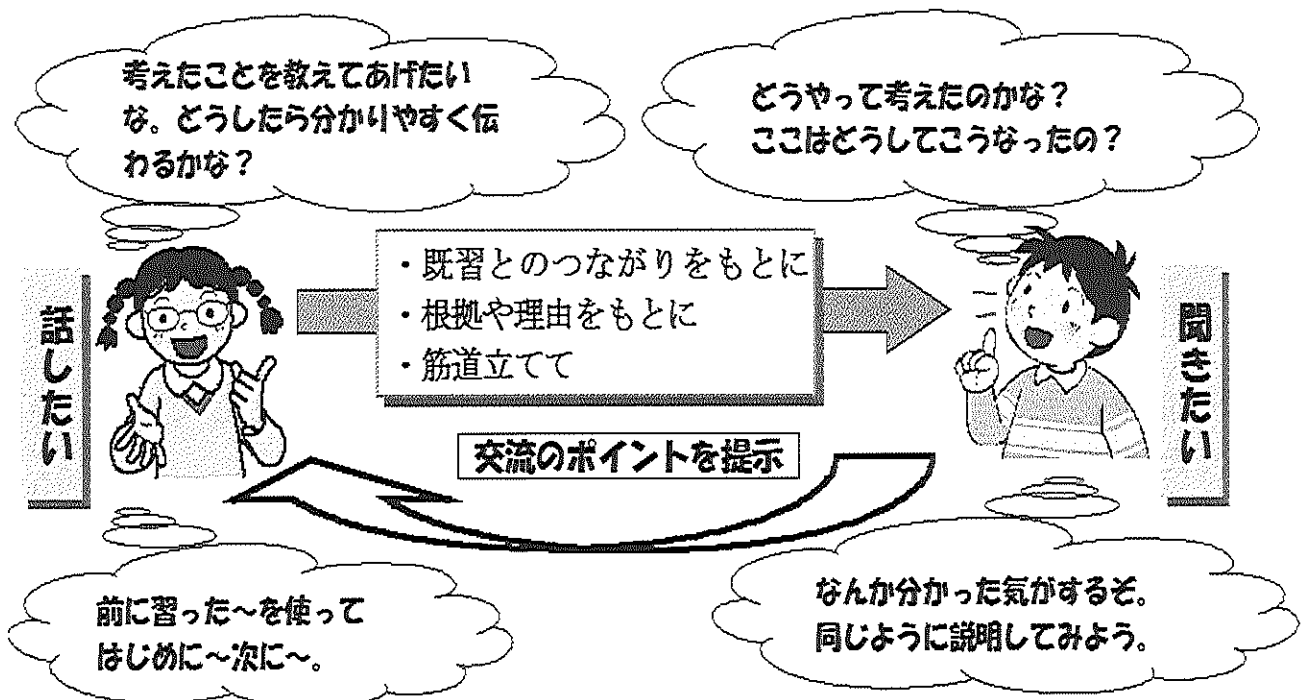
聞いていることが相手に伝わるような取組を発達段階に応じて設定し行っていく。

<活動例>

- ・相手の考えを聞き手が説明する。
- ・聞いた後に質問をする。
- ・説明に対して感想を言う。 等

○交流ポイントの提示

何のためにその活動を行うのかを理解し、より「聞きたい」「やってみたい(話したい)」につなげるために、交流するポイントを分かりやすく事前に提示する。



Ⅲ 研究協力員の実践



1 中学3年 国語科 「風景と心情 一漢詩を味わう一」

天塩町立天塩中学校 福原富子 教諭

2 小学6年 算数科 「比」

羽幌町立羽幌小学校 佐藤元希 教諭

中学3年 国語科「風景と心情—漢詩を味わう—」

天塩町立天塩中学校 福原富子 教諭

1 はじめに

(1) 単元について

本単元は、中学校の古典学習の集大成である。これまで『故事成語』(1年)や孔子の『論語』(2年)で、文語のきまりや訓読の仕方、古文や漢文特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れ、漢詩が日本に強い影響を与えて続けてきたことを学習してきた。

本単元では、さらに漢詩のきまりとして絶句や律詩、押韻や対句などの表現の特徴を学ぶ。内容は漢詩『春望』『黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る』である。教科書では、書き下し文と解説を配し、段階的に理解できるように配慮がなされている。音読により表現の美しさやリズムをとらえ、自然の巧みな描写に気を付けながら、作者の感動や悲しみなどの心情を味わわせることで、漢文に親しみをもたせることのできる教材だと考える。そのため、作者の生き方や境遇、作品の歴史的背景を紹介することで、作品への興味関心を高め、古典に親しめるようにしたい。

そこで、「漢詩や書き下し文から読み取った内容を鑑賞文にまとめ、交流する」という言語活動を単元の終末に設定した。鑑賞文の交流を図ることで、作品の感じ方が様々あることに気づき、自分の作品への理解や感じ方、その表現の仕方を深めるきっかけにもしたい。自分の作品への理解を見直させることにより、より深く古典を味わわせることができると考えた。

2 研究の視点

(1) 主体的な学びを生む学習活動

① 学ぶ内容と解決の方法を見通す活動の設定と工夫 (やってみたい) (考えたい)

単元を貫く言語活動を「漢詩や書き下し文から読み取った内容を鑑賞文にまとめ、交流する」と設定した。利点としては、漢文特有のリズムを感じとったり、作者の心情をより深く体感できたりすることである。

そこで、本単元では、次のように単元構成を工夫した。1時間目に既習の漢詩のきまりについて十分復習したり、新出の漢詩の基本的なきまりについて学んだりなど、知識の確実な定着を図った。2時間目では、『春暁』を用いて鑑賞文のモデルを示すことで、鑑賞文を構成する流れやポイントの理解を確実にさせた。3・4時間目は、2つの漢詩それぞれについて、写真や現代語訳を活用し、作者の生き方や境遇、作品の歴史的背景に触れながら、内容理解を進め、古典の世界に親しませた。そうして、漢詩への興味関心を高めることで、5時間目の交流活動が活発になり、古典への味わいが深まるようにした。

また、単元の最初に、「5時間目に鑑賞文の交流活動を行う」ことを提示す

ることで、単元の見通しをもたせることができるとともに、学習活動への意欲を高められるようにした。生徒が「友達に鑑賞文の内容をわかりやすく伝えるために、毎回の授業を十分に理解していくことが大切だ」と、1単位時間の学習活動と単元を貫く言語活動とのつながりを意識し、より主体的に学習に取り組むことができると考えたからである。

②学びの過程や結果を振り返り、次の学びへとつなげる活動の設定と指導のあり方 (学びたい)

単元を通して、1単位時間の終末時に振り返る活動を設定した。一人一人の学習状況を把握し、支援の手がかりとすることに加え、「学習課題に対して、自分にとってどのような学びがあったのか」という視点を置き、記述式で振り返らせた。

「内容に関わること」	: 学習事項の知識や技能
「理解の変容に関わること」	: 既存の考えから新しい理解への変化
「学び方に関わること」	: 学習した筋道や自分の思考や判断

記述内容は上記のようにし、思考力、判断力、表現力を育むことや生徒の主体性や学習意欲を高めたりすることにつなげた。また、これらの「認知面」からの記述だけでなく、新たな課題を見付け、学習への意欲をもつ「情意面」での振り返りも認め、振り返る時間の確保を含めて計画的に行ってきた。

さらに、漢文についての自分の考えを1時間目に「単元のはじめの考え」として、5時間目に「単元の最後の考え」として記述させ、比較させることで、学習したことによる自己の変容や自己の認識の深化をしっかりと自覚することへとつなげていきたいと考えた。

(2) 思考力・表現力を育成する活動の工夫

①学びをつなぎ、筋道立てて考え、根拠や理由を示して伝える活動の工夫

(話したい) (聞きたい)

単元を貫く言語活動として「漢詩や書き下し文から読み取った内容を鑑賞文にまとめ、交流し合う」ことを位置付けたことで、単元の導入時から「よりよい鑑賞文や交流にするためには？」という学習への目的意識をもたせるようにした。また、生徒相互で鑑賞文を交流し合うため、「友達に自分の鑑賞文を発表する」という相手意識も明確にもつことができると考えた。

5時間目の交流活動を充実したものにするには、鑑賞のもととなる3・4時間目の学習が鍵になると考え、「詩の中の起承転結に注目させ、クライマックスを探し、根拠をもって説明する」など、作品に描かれた情景や心情を想像して読み、表現する活動において、作品の言葉や文、現代語訳や語中等から、自分の考えの根拠がどこなのかを明確にし、ペアで交流させた。それらを繰り返すことで、自分の考えを伝える活動に慣れさせ、「話したい」という意欲や自信を高めたいと考えた。

②解決のきっかけをつかみ、考えを深めるための交流の工夫

(聞きたい) (やってみたい)

本単元の5時間目では、鑑賞文を書き、交流を行った。その際、交流のポイント(キーワード・作者の心情・現代語訳をもとにしているか、など)を具体的に示すことで、自分の鑑賞文の説明や相手の鑑賞文への感想を述べる際の視点が、より分かりやすくなると考えた。

また、交流をもとに鑑賞文の推敲をする活動を設定することで、「お互いの発表をよく聞く」という必然性を生みだし、それが「聞きたい」という意欲や「もっとよい鑑賞文を『作ってみたい(やってみたい)』」という気持ちにつながると考えた。そのため、交流時には、自分と友達との考えや感じ方の相違点に着目させ、「聞きたい」という気持ちを高めることを大切にしたいと考えた。

3 単元の目標

(1) 単元の目標

- ・歴史的背景を踏まえて話し合い、情景の描写を捉え、心情を理解して考えを深める。
- ・詩の形式や表現の工夫などを理解して、作品の内容を理解し、作品の響きを味わう。

(2) 評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・漢詩の表現の工夫に興味をもち、学習しようとしている。 ・漢文の訓読法を振り返りながら漢詩の表現の工夫を確認し、漢詩を読もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢詩の歴史的背景を踏まえ、情景の描写や作者の心情を理解して、自分の考えを深めている。 ・語句の効果的な使い方、表現上の工夫に注意して読んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢詩の形式を知り、その言葉の響きやリズムなどに注意して音読している。 ・七言絶句や五言律詩の形式、起承転結の構成や対句について理解し、書き下し文を書いている。

4 指導計画(5時間)

時数	○主な学習活動 ・生徒の活動	◎教師の働きかけ	【 】評価規準 () 評価物 ○留意点
つかむ	① ○これまでの漢文の学習を振り返る。 ◎漢文についての自分の考えを「単元のはじめの考え」としてノートに記述させる。 ○学習の見通しを立てる。 ・単元名と教科書の最初の漢詩の紹介文を読む。 ・教科書P124～126までの漢詩の範読CDを聞く。 ◎今回の単元の目標を確認し、単元のゴールを示す。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">2つの漢詩を鑑賞文にして、交流し合う。</div>		【国語への関心・意欲・態度】 ・漢詩の表現の工夫に興味をもち、学習しようとしている。(発言・ノート) 視点1①【やってみたい】 単元目標を確認し、ゴールを示すことで見通しをもたせ、主体的な学習につなげる。

◎学習課題を提示する。

漢文や漢詩の基本的なきまりについて理解しよう。

○漢文のきまりについて復習する。

- ・ 返り点は左下，送り仮名は右下にカタカナで表記される。
- ・ 書き下し文はひらがなで表記する。

◎返り点と送り仮名の表記のしかたを確認する。

○練習問題に取り組む。

- ・ グループ内で全員が理解できるよう，協同学習を行う。

◎漢詩のきまりについて教える。

○漢詩のきまりについてノートにまとめる。

- ① 詩形 「絶句」と「律詩」，五言と七言
- ② 押韻 ③ 対句

○学習のまとめと振り返りを行う。

- ① 学習の流れや学習方法，単元のゴールを理解し，単元の見通しをもてたか。
- ② 古典を読み，自分の考えをもつということを理解できたか。
- ③ 漢文や漢詩の基本的なきまりを理解できたか。

○グループ編成は，生活班を基準にして行う。下位層の生徒には，学習支援員の教員を配置する。

視点1②【学びたい】
振り返り活動から，自分の理解度を教師の支援へ生かす。

② ○前時の確認テストを行う。

- ・ 書き下し文（レ点，一・二点の混合）の練習問題を行う。

漢詩の鑑賞の基本を身につけよう。

◎「春暁」の内容をもとに，漢詩のもつリズムや漢詩のきまりについて確認する。

○書き下し文をもとに，音読を繰り返す行う。

○書き下し文や現代語訳などをもとに，情景や作者の心情を想像する。

◎読み取ったことをもとにして書いた鑑賞文（例）を紹介する。

春の朝。心地よく眠っていて，夜が明けたのにも気づいていません。あちこちから鳥の鳴き声が聞こえてきて，昨夜の雨でどのくらいの花が散ったかと思っています。作者は布団の中から春の暖かな朝を感じているのだと思います。私も，春になりだんだん暖かくなると布団から出られないこともあるので，作者の気持ちがよく分かりました。

【国語への関心・意欲・態度】

・ 漢文の訓読法を振り返りながら漢詩の表現の工夫を確認し，漢詩を読もうとしている。（発言・ノート）

【読む能力】

・ 語句の効果的な使い方や表現上の工夫に注意して読んでいる。（発言・ノート）

視点1①【やってみたい】
次時以降に行う，活動をモデルとして示すことで，見通しを明確にし，主体的な学習につなげる。

◎鑑賞文に用いられている言葉や表現技法について注目させ、鑑賞文を構成する流れをまとめる。

【鑑賞文を構成する流れ】

- ・季節はいつか。
- ・誰がどんなことをしている場面か。
- ・クライマックスはどこか。
- ・作者はこの詩を書いたとき、どういう心情か。
- ・自分なりにどういう印象を受けたか。

視点1②【学びたい】
知識や技能など内容に関わる振り返りを行うことで定着を図り、さらに学習への意欲を高める。

追
求
す
る

③ ◎前時の振り返りを行い、本時の学習課題を確認する。

「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」の鑑賞をしよう。

◎漢詩のもつリズムや漢詩のきまりについて確認する。

○音読を繰り返し行う。

◎書き下し文を書かせ、現代語訳を教科書で確認する。

○ノートに書き下し文を書く。

◎詩の中の起承転結に着目させ、情景や作者の心情を想像させる。

○場面の展開に注目し、想像した内容について、根拠をもとに説明し合う。

○説明された内容をノートにメモし、鑑賞文創作の材料にする。

【鑑賞文創作の材料】

- ・対比 ・孤独 ・自然 ・黄鶴楼の華やかさ
- ・別れ ・友人

○学習のまとめと振り返りを行う。

①描写の効果や、登場人物の言動の意味等をとらえ、それぞれの漢詩の内容を理解することができたか。

②作品に表われているものの見方や考え方について、自分の知識や経験と関連付けて考え、自分の意見を持ち、交流することができたか。

【言語についての知識・理解・技能】

- ・漢詩の形式を知り、その言葉の響きやリズムなどに注意して音読している。(音読)
- ・七言絶句や五言律詩の形式、起承転結の構成や対句について理解し、書き下し文を書いている。(ノート)

【読む能力】

- ・漢詩の歴史的背景を踏まえ、情景の描写や作者の心情を理解している。(発言・ノート)
- 登場人物や情景について現代語訳をもとに図示する。

視点2①【話したい】

説明し合う活動を行うことで自分の考えの根拠を明確にするだけでなく、伝える活動に慣れ、その後の活動の意欲を高める。

視点1②【学びたい】

学び方に関わる振り返りを行うことで、学習への意欲や表現力を高める。

	<p>④ ◎前時の振り返りを行い、本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「春望」の鑑賞をしよう。</div> <p>◎漢詩のもつリズムや漢詩のきまりについて確認する。</p> <p>○音読を繰り返し行う。</p> <p>◎書き下し文を書かせ、現代語訳を教科書で確認する。</p> <p>○ノートに書き下し文を書く。</p> <p>◎詩の中の起承転結に着目させ、情景や作者の心情を想像させる。</p> <p>○場面の展開に注目し、想像した内容について、根拠をもとに説明し合う。</p> <p>○説明された内容をノートにメモし、鑑賞文創作の材料にする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【鑑賞文創作の材料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心が落ち着かず ・家族からの手紙 ・戦乱 ・自然 ・人の世のはかなさ </div> <p>○「自然」と「人の営み」または「人の世」という言葉を使ってこの詩の主題を短くまとめる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自然は変わらないが、人の営み（人の世）は悲しいほど変わっていく。</p> </div> <p>○学習のまとめと振り返りを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①描写の効果や、登場人物の言動の意味等をとらえ、それぞれの漢詩の内容を理解することができたか。</p> <p>②作品に表われているものの見方や考え方について、自分の知識や経験と関連付けて考え、自分の意見をもち、交流することができたか。</p> </div>	<p>【言語についての知識・理解・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢詩の形式を知り、その言葉の響きやリズムなどに注意して音読している。（音読） ・七言絶句や五言律詩の形式、起承転結の構成や対句について理解し、書き下し文を書いている。（ノート） <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>視点2①【話したい】</p> <p>説明し合う活動を行うことで自分の考えの根拠を明確にするだけでなく、伝える活動に慣れ、その後の活動の意欲を高める。</p> </div> <p>【読む能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢詩の歴史的背景を踏まえ、情景の描写や作者の心情を理解している。（発言・ノート） ○中心人物の心情の変化に注目させる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>視点1②【学びたい】</p> <p>学び方に関わる振り返りを行うことで、学習への意欲や表現力を高める。</p> </div>
<p>ま と め る</p> <p>※ 本 時</p>	<p>⑤ ◎前時の振り返りを行い、本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">鑑賞文を書いたり、交流したりする活動を通して、情景や作者の心情の理解を深めよう。</div> <p>◎学習の進め方について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一方の鑑賞文を選択し、鑑賞文を完成させる。 <p>◎漢詩ごとの小グループを構成させる。</p> <p>○鑑賞文を書くための必要な情報を確認する。</p>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢詩の表現の工夫に興味をもち、学習しようとしている。（発言・ノート） <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>視点①2【学びたい】</p> <p>前時までの学習を振り返り、本時とのつながりを意識させることで、主体的な学習につなげる。</p> </div>

- ・季節はいつか？
- ・誰がどんなことをしている場面を描いたものか？
- ・クライマックスはどこか？
- ・作者がこの詩を書いたときの心情は？
- ・自分なりに受けた印象は？

- 個人で鑑賞文を創作する。
- 創作した鑑賞文を個人で自由に交流し合う。

- 【交流のポイント】
- ・鑑賞文に構成要素がきちんと含まれているか。
 - ・根拠に基づいて、分かりやすい文になっているか。
 - ・自分の感じ方の類似点(共感)や異なる点(疑問)。

- ◎メモした感想や同じ漢詩の鑑賞文をもとに推敲させる。
- 交流した内容をもとに、個人で鑑賞文を推敲する。
- 学習を振り返り、自己評価をする。

・描写の効果、登場人物の言動の意味、場面や登場人物の設定の仕方をとらえて、作者の心情や作品の主題を理解し、交流して深めることができたか。

- ◎「単元の最後の考え」をノートに記述させ、「単元のはじめの考え」と比較させる。

視点2②【聞きたい・やってみよう】
相手の鑑賞文に対して必ず感想を伝え合うという活動を行うことで、聞く意識を高める。

視点2②【聞きたい・やってみよう】
交流し合ったことで、様々な感じ方や表現の仕方があることに気付かせ、作品をさらによりよいものにする態度につなげる。

【読む能力】
・漢詩に描かれた情景や人物像、作者の心情を理解している。(ノート)

視点1②【学びたい】
単元の前で自分の考えの変容に気付かせ、自己の認識を深める。

5 本時の実際

(1) 本時の目標

- ・漢詩の表現の工夫に興味をもち、学習しようとする。【関心・意欲・態度】
- ・漢詩に描かれた情景や人物の姿、作者の心情を理解することができる。【読む能力】

(2) 本時の展開 (5/5)

段階(分)	○主な学習活動 ◎教師の働きかけ ・生徒の活動	【 】評価規準 () 評価物 ○留意点
導入 10	<ul style="list-style-type: none"> ○前時までの学習内容を振り返った。 ・「黄鶴楼」「春望」の鑑賞をして、鑑賞文創作の材料を整理した。 ・鑑賞文の構成(季節・場面・クライマックス・作者の心情・自分の印象)について学習した。 	<p>視点①2【学びたい】 前時までの学習を振り返り、本時とのつながりを意識させることで、主体的な学習につなげる。</p>

○本時の学習課題を確認した。

鑑賞文を書いたり、交流したりする活動を通して、
情景や作者の心情の理解を深めよう。

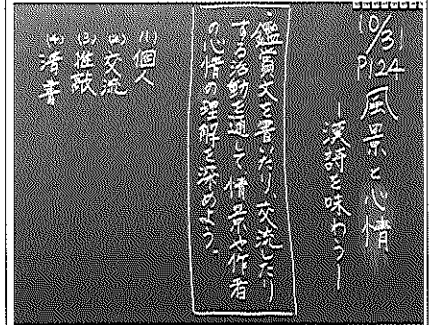
◎学習の進め方について説明をした。

- (1) 「黄鶴楼」「春望」どちらの鑑賞文を書くのか選択する。
- (2) 選択した漢詩文をもとに、個人で鑑賞文を書く。
- (3) 個人で、創作した鑑賞文を推敲する。

◎各漢詩の小グループを構成させた。



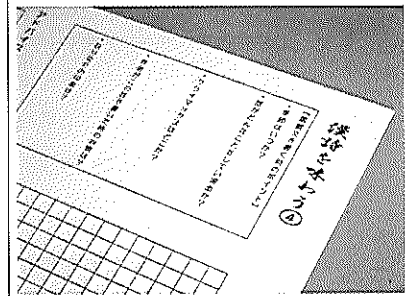
○学習課題は、本単元の
「単元を貫く言語活動」
と同じである。



○漢詩を自分で選択する
ことで主体的に学習に
参加させた。

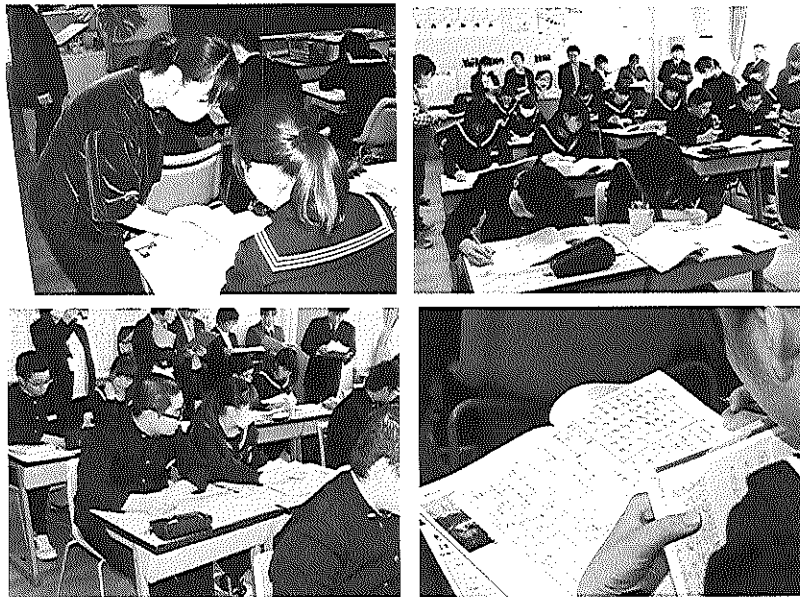
○鑑賞文を書くための必要な情報を確認した。

- ・季節はいつか？
- ・誰がどんなことをしている場面を描いたものか？
- ・クライマックスはどこか？
- ・作者がこの詩を書いたときの心情は？
- ・自分なりに受けた印象は？



展開
30
個人
15
自由
交流
15

○個人で鑑賞文を創作した。



【関心・意欲・態度】

・漢詩の表現の工夫に興味をもち、学習しようとしている。(発言・ノート)

【読む能力】

・漢詩に描かれた情景や人物像、作者の心情を理解している。(発言・ノート)

○書くのが困難な生徒は、
周りの生徒に聞くよう、
促した。

生徒 A (黄鶴楼)

・鑑賞文を書く時のポイント
 ・季節はいつか？
 ・春(春)の空が立ち上る。三月、
 ・誰がどんなことをしている場面か？
 ・古くからの友人である
 浩然が、揚州に向かっ
 て長江を下っている。
 (友との別れ)
 ・クライマックスはどこか？
 ・友の来る船も見えなかり、
 た川が流れている。そ
 れに、見ているはりである。
 ・作者がこの語を書いた時の心情は？
 ・友との別れを
 惜しんでいる。

引越し
引越し

た	た	い	見	ら	に	孟	を	と	流	も	に	の	春
り	り	え	え	れ	私	浩	見	の	れ	香	向	友	の
し	り	な	る	る	も	然	つ	別	て	空	け	人	源
た	元	な	る	な	引	も	め	れ	い	に	て	あ	か
の	の	な	る	な	し	旅	て	る	る	見	え	る	立
で	の	ま	た	た	越	へ	い	の	を	な	な	孟	ち
気	方	た	た	た	し	の	李	白	み	な	い	浩	上
持	ま	た	と	見	の	不	白	た	い	な	り	然	る
う	い	た	か	送	か	や	か	つ	た	た	た	ほ	三
か	ま	ず	あ	る	な	友	そ	ま	李	友	長	月	。
よ	く	と	り	側	思	の	の	も	長	友	江	古	。
く	分	も	眺	望	見	別	反	長	友	江	揚	州	。
か	か	眠	め	送	た	れ	面	江	人	加	舟	。	
の													

生徒 B (春望)

・鑑賞文を書く時のポイント
 ・季節はいつか？
 ・誰がどんなことをしている場面か？
 ・春(春)の空が立ち上る。三月、
 ・誰がどんなことをしている場面か？
 ・古くからの友人である
 浩然が、揚州に向かっ
 て長江を下っている。
 (友との別れ)
 ・クライマックスはどこか？
 ・友の来る船も見えなかり、
 た川が流れている。そ
 れに、見ているはりである。
 ・作者がこの語を書いた時の心情は？
 ・友との別れを
 惜しんでいる。

者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦	す	。	
と	同	い	気	持	ち	に	な	る	と	思	い	苦	す	。										
者	と	自	分	も	作	者	の	悲	し	い	人	の	宮	み	が	あ	る	と	思	い	苦			

6 成果と課題

(1) 主体的な学びを生む学習活動

〔成果〕

- ・単元を貫く言語活動を設定し、単元の最初に本時の内容を示したことで見通しをもつことができ、前時までのつながりを意識しながら、意欲的に学習に取り組む様子が見られた。
- ・鑑賞文のモデルを示し、構成やポイントなどを視覚的に理解しやすくしたことで、書く活動に苦手意識をもつ生徒が「まずはこれに習ってやってみよう！」と安心して取り組む様子が見られ、生徒の主体的な活動を促すことができた。
- ・振り返り活動を通して、教師が生徒のつまづきや変容を見取り、個別の支援を行うことができた。

〔課題〕

- ・振り返り時間を含めた終末の十分な時間の確保のために、発問や指示の吟味、ワークシートの型や活用方法の工夫等、さらなる精選が必要である。
- ・指導計画の作成も、単元のねらいの達成に向けてだけでなく、より生徒の実態に合ったもの（書くことへの抵抗感を軽減する等）に工夫する必要がある。
- ・鑑賞文を書くために必要な情報を確認できる時間を十分確保することができれば、より主体的な学びへつなげられたのではないか。

(2) 思考力・表現力を育成する活動の工夫

〔成果〕

- ・「友達の鑑賞文に対して感想を伝える」という明確な目的が設定されていたことで、聞く意識を高めながら交流することができた。さらに、自分の鑑賞文を見直しにつなげる生徒や、伝え合う活動が活発化していたペアがあった。
- ・「友達に発表する」という自分の考えを伝える活動の継続した取組が、相手意識のある表現の習慣化につながることもわかった。

〔課題〕

- ・交流後に自分の鑑賞文を見直す等、個人思考を深める時間を十分に確保することで、さらに表現力を高めることにつなげられると考えた。また、目的に合わせた学習形態等、日頃の学びの積み重ねが、思考力や表現力の育成に向けて非常に大切である。
- ・本単元は、書く活動を通して「読むこと」を深めるところなので、「書くこと」に終始しないような指示や手立てを工夫する必要がある。

小学6年 算数科「比」

羽幌町立羽幌小学校 佐藤元希 教諭

1 はじめに

(1) 単元について

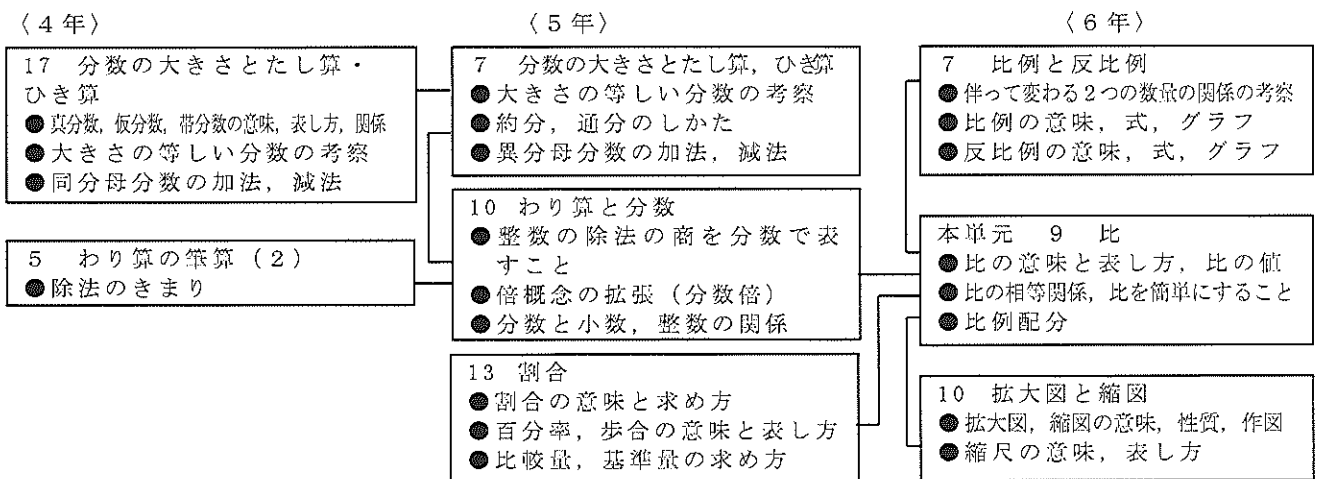
児童はこれまでに、倍や割合、分数などの学習の中で、2つの数量AとBの割合を表す場合に、A、Bの一方を基準量として「AはBの2倍である」「BはAの2分の1にあたる」というように1つの数で表すことを学習してきた。これは、一方の数量を基準として他方の大きさを表す方法である。

本単元では、2つの数量の割合を表す場合に、どちらか一方を基準量とするのではなく、2つの数の組で表す方法として、比の意味や表し方を学習する。比は、日常生活のさまざまな場面で用いられるので、日常生活の中から比が用いられる事象を探し、それを活用して物事を処理するような活動を取り入れることが大切である。

そこで、日常の生活場面より、表した比がもとの比と同じ割合であることを調べたり、もとの比と同じ割合の比をつくったりできる場面を見付けたり解決したりする活動を取り入れる。このような具体的な場面での活用を目的に学習を進めることで、比の相等や比の値、比を簡単にすること、比例配分の考えなどの理解につなげることができると思う。

比の考えは、割合の学習はもとより、比例と反比例、除法の性質、分数の性質とも結びつくものであり、本単元の学習を進めていく上で、これらの既習事項との共通性に注目させ、相互に理解が深められるよう指導を工夫していきたい。

単元の系統



2 研究の視点

(1) 主体的な学びを生む学習活動

①学ぶ内容と解決の方法を見通す活動の設定と工夫（やってみたい）（考えたい）

児童が主体的に学習を進めていくためには、児童自らが学習課題を自分ごととして捉え、課題意識をもって学習を進めていく必要がある。そのためには、教師の意図的・計画的な働きかけが重要である。

そこで、本単元の1時間目に活用問題を提示し、「単元最後にこんな問題を解けるようになるんだ」という目標地点を知る場面を設定した。単元を見通すことができる活動を取り入れる事で、算数に苦手意識がある児童にこれからすること(モデル)、していくこと(学習課題の解決に向けた過程)、できそうなこと(単元を通して活用していけそうな能力)をイメージさせることができ、「この単元の勉強、頑張れそうだな」と、課題解決への前向きな気持ちをもたせることができると考えた。また、1単位時間の学習においては、課題をしっかりと把握させ解決のための見通しをもたせる工夫を図った。課題を把握する場面では、問題文から分かることや前時までとの違いを整理し、課題意識につなげた。さらに、答えの見通しや問題に取り組む上で使えそうな既習事項を問いかけ、学級全体に共有させることで、算数が苦手な児童も最後まで意欲をもって取り組めるようにした。

②学びの過程や結果を振り返り、次の学びへとつなげる活動の設定と指導のあり方（学びたい）

振り返りの活動を設定することで、児童が「どんなことが分かったのか」や「どんなところでつまづいたのか」をメタ認知したり、単元および1単位時間の授業を通しての自身の変容を実感したりすることができると思った。

本単元では7時間目に「やってみるとできた!」と振り返られる場面を設定した。はじめは「こんな難しそうな問題を解くのか!」ともった思いが、単元の最後で「分かった!できた!」と着地することで、単元を通しての自身の伸びを実感できる機会になるのではないかと考えたからである。

また、単元を通して、1単位時間の終末にも継続的に振り返りの活動を行った。本時の学習内容で分かったことや難しかったことといった「内容に関わること」、話し合いの中で交流から気が付いたことなどの「理解の変容に関わること」、頑張ったことや自身の学習態度といった「学び方に関わること」に加え、友達の良かった考えやすごいと思ったことなど「友達に関わること」など他者評価も認めながら、記述させた。見通しに基づいて振り返りをさせることで児童自らのメタ認知を促すとともに、したこと(表現物)、してきたこと(学習の解決の過程)、できるようになったこと(習得した能力)を実感させ、次時への意欲や算数科における自己肯定感を高められるようにした。

振り返りについては、授業の中で適宜読み返す時間を設けたり、コメントを返して意欲を引き出したり、学習内容の掲示物にいくつか振り返りのコピーを貼って学びの足跡を残したりするなど、場面に応じて活用した。

(2) 思考力・表現力を育成する活動の工夫

①学びをつなぎ、筋道立てて考え、根拠や理由を示して伝える活動の工夫

(話したい) (聞きたい)

交流場面が、他者の考えを「確認する」活動にとどまらず、自分の考えを「練り上げる」ための活動であると目的意識をもたせることで、児童一人一人の思考が深まると考えた。自分の考えを誰かに伝える、そして、それが他者の新たな考えのヒントになるかもしれないと相手意識を高めることで、「より明確で分かりやすく表現したい」という意識を高められると考えたからである。

そのため、個人思考の場面では、ノートに長い説明を書くのではなく、式や図を活用し、吹き出しでポイントを書き加えるなど簡潔にまとめるようにした。ノートを見れば、自分の考えの根拠がはっきりと分かると同時に、自分の考えを比較しながら相手の考えを聞くポイントをも明確にすることができると考えた。そして、これらの個人思考と交流活動を繰り返し行い、自分の考えを伝える活動に慣れさせることで「話したい」「聞きたい」という意欲や自信を高めるようにした。

②解決のきっかけをつかみ、考えを深めるための交流の工夫

(聞きたい) (やってみたい)

本単元では、適宜小集団交流の場面を設定した。これは、自分の考えを確かなものにしたたり、自分とは違う方法で取り組んだ児童の説明を聞くことで考えを広げ、深めたりすることをねらいとしている。また、個人思考で正解へと辿り着けなかった児童にとっては、友達の考えを聞いて「なるほど、そういうことだったのか」と分かる喜びを感じることができるきっかけになるとも考えたからである。

全体交流の場面では、小集団交流にて広げ、深めた考えについて、数名の児童が説明をつなぎながら発表するリレー説明の活動を交流のゴールに設定した。それを通して、児童一人一人に聞くことの必要感をもたせることができると考えた。しっかりと他者の考えを聞き取ることにより、多様な考えに触れ、課題解決のきっかけをつかみ、様々な解決方法があることに気付かせることで、児童の考えを広げ、深められるようにした。

3 単元の目標

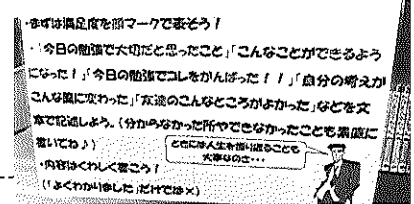
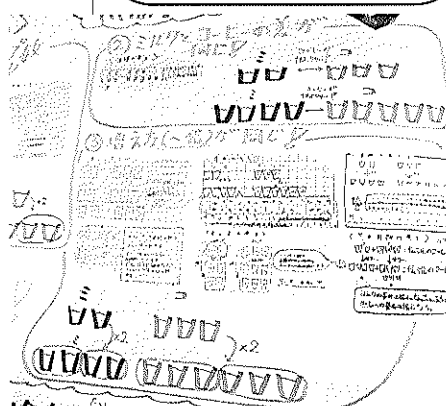
(1) 単元の目標

- ・比の意味や表し方について理解する。D(1)
- ・比の相等について理解し、比の性質を用いて、問題を解決することができる。D(1)

(2) 評価規準

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
・身の回りから比を見付けたり、比のよさに気付き、進んで生活や学習に活用したりしようとしている。	・比を割合と関連付けて考えている。	・2つの数量の関係を調べ、比で表すことができる。また、比の性質を用いて、問題を解決することができる。	・比の意味や表し方、比の相等について理解している。

4 指導計画（8時間）

時	○主な学習活動 ◎教師の働きかけ ・児童の活動	【】評価規準 () 評価物 ○留意点
①	<p>◎本単元で学習する内容の見通しをもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P119～P126の内容に目を通す。 ・教科書P126の問題7を読む。 <p>○本時の問題（P119問題1）を読み，課題を把握する 〈問題〉ミルクを4カップにして，さえこさんと同じ味のミルクコーヒーを作るにはどうすればよいでしょうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>同じ味のミルクコーヒーにするためには，何を同じにしたらよいのか考えよう！</p> </div> <p>○さえこさんのミルクコーヒーと同じ味にする方法を考える。</p> <p>○自分の考えについてグループで交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミルクが2カップ増えるからコーヒーも2カップ増やしてみた。 ・ミルクの量が2倍になるからコーヒーの量も2倍にしてみた。 <p>○グループで交流した内容について，リレー説明で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミルクが2カップ増えたので，コーヒーも2カップ増やしてみました。→するとミルクの量とコーヒーの量の差がさえこさんのミルクコーヒーと同じになります。 ・ミルクが4カップ，コーヒーが6カップで考えました。→それは，ミルクの量が2倍になっているから，コーヒーの量も2倍にして考えたからです。 <p>○比とその表し方について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>2と3の割合を「:」の記号を使って2:3のように表す。このように表された割合を比とい</p> </div> <p>○差で考えた場合と割合で考えた場合の，ミルクとコーヒーの割合を比で表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミルク対コーヒーが4:5のものと4:6のものになるね。 <p>◎ミルクとコーヒーの差で考えた方法と割合で考えた方法，どちらが同じ味になるのかは次時で明らかになることを伝え，本時の振り返りに取り組ませる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>〈振り返りの視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の勉強で大切だと思ったこと ・変化した自分の考え ・できるようになったことや進歩したこと ・友達のよかった点 </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>目標せ！振り返り名人！</p>  <p>まずは満足度を顔マークで表そう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の勉強で大切だと思ったこと「こんなことができるようになった！」「今日の勉強でコシをがんばった！」「自分の考えがこんな風に変わった」「友達のことや自分がよかった」などを文章で記述しよう。（分かった所やできなかったことも黒板に書いておけ！） ・内容を詳しく書くこと！ ・よくわかりました（だけではありません） </div>	<p>視点1①【やってみたい】 単元を学習する1時間目に活用問題を提示して「最終的に自分達はこんな問題を解けるようになるんだ」と単元最後の目標地点を示し，学習に対する意欲を高める。</p> <p>【関心・意欲・態度】 ・ミルクとコーヒーの数量の割合を工夫して表そうとしている。（発言・ノート）</p> <p>視点2②【聞きたい】 交流のゴールにリレー説明という活動を設定することで，聞くことの必要感をもたせ，しっかりと他者の考えを聞き取ったことにより課題解決のきっかけをつかませる。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>【知識・理解】 ・簡単な場合について，2つの数量の関係を表す比の意味や表し方を理解している。（ノート）</p> <p>視点1②【学びたい】 見通しに基づいて振り返りをさせることでメタ認知を促すとともに，次時への意欲や算数科における自己肯定感を高める。</p>

◎前時にたてた課題と学習活動を想起する。

同じ味のミルクコーヒーにするためには、何を同じにしたらよいのか考えよう！

- ・前時は比について学んだ。
- ・差で表したミルクコーヒーでは4 : 5, 割合で表したミルクコーヒーは4 : 6になった。
- カップ2杯を1とみたときに、差で考えたミルクコーヒーと割合で表したミルクコーヒーがそれぞれどんな比になるかを考える。
 - ・4 : 5で表したミルクコーヒーは、カップ2杯を1として考えるとミルクが2でコーヒーは2.5になる。
 - ・4 : 6で表したミルクコーヒーはでは、ミルクが2でコーヒーが3となる。
 - ・割合で考えた方のミルクコーヒーはさえこさんのミルクコーヒーと同じ比になることから、同じ味になる。
- 比の値について知る。

②

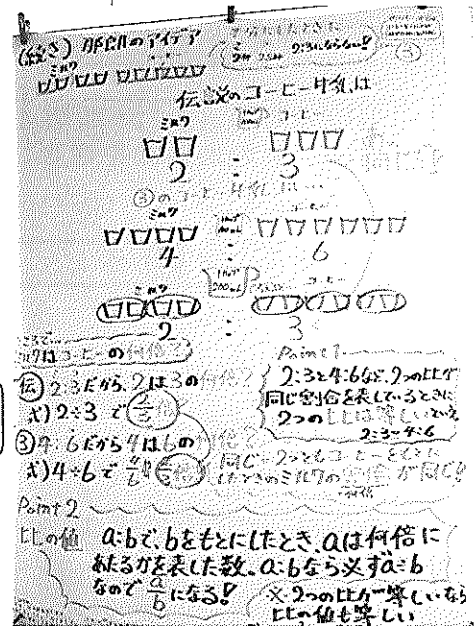
a:b で表された比で、bを1とみたときにaがいくつにあたるかを表した数を比の値という。a:bの比の値は、 $a \div b$ の商になる。

- ・2 : 3も4 : 6もどちらも比の値は $\frac{2}{3}$ になる。
- ・2つの比が等しいときには比の値も等しくなるんだね！
- P121のたしかめ1に取り組む。
- 本時の振り返りを記入する。

視点1②
【学びたい】

〈振り返りの視点〉

- ・今日の勉強で大切だと思ったこと
- ・変化した自分の考え
- ・できるようになったことや進歩したこと
- ・友達のがよかった点



- 本時の問題 (P122問題2) を読み、課題を把握する。
〈問題〉等しい比2 : 3と4 : 6の間には、どのような関係があるのか調べましょう。

等しい比にはどのような関係があるのか、そのひみつを探ろう！

③

- 等しい比の性質について調べ、気が付いたことをまとめる。
 - ・2つの比がどちらも2倍、 $\frac{1}{2}$ の関係になっている
 - ・どちらの比の値も同じになっている。
- 等しい性質について気が付いたことをペアで交流する。
- ペアで交流した内容について、相手の考えを自分が説明するという方法で全体交流を行う。
- 比の性質についてまとめる。

a:bのaとbに同じ数をかけたり、同じ数でわったりしてできる比は、すべて等しい比になる。

- P122のたしかめ2を解く。

【知識・理解】

- ・2つの比が等しいときは、比の値が等しくなることを理解している。(ノート)
- 同じ割合と同じ味が結び付かない場合は、もしミルクとコーヒーの差で考えた場合、コーヒーが1杯のときにミルクは0杯ということになる話をする。

視点2②【聞きたい】

交流のゴールに説明リレーという活動を設定することで、聞くことの必要感をもたせ、しっかりと他者の考えを聞き取ったことにより課題解決のきっかけをつかませる。

【知識・理解】

- ・比の前の数と後ろの数に、同じ数をかけたり、同じ数で割ったりすると、等しい比が作れることについて理解している。(ノート)

○教科書 P 122 の問題 3 に取り組む。

〈問題〉 $12:18$ と等しい比で、できるだけ小さい整数どうしの比を求めましょう。

・比を簡単にするためには最大公約数でわるとよい。

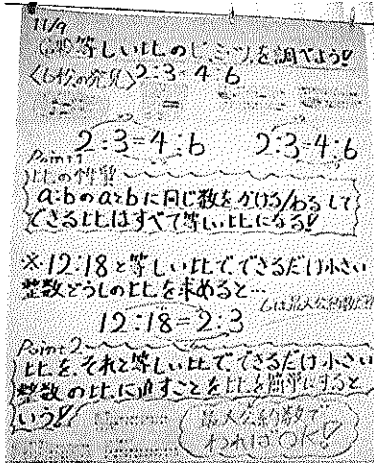
◎「比を簡単にする」という用語についておさえる。

○教科書 P 123 のたしかめ 3 を解く。

○本時の振り返りを記入する。

〈振り返りの視点〉

- ・今日の勉強で大切だと思ったこと
- ・変化した自分の考え ・友達のよかった点
- ・できるようになったことや進歩したこと



【知識・理解】

・比の性質をもとに、整数どうしの比を簡単にする方法を理解している。(ノート)

視点 1 ② 【学びたい】

見通しに基づいて振り返りをさせることでメタ認知を促すとともに、次時への意欲や算数科における自己肯定感を高める。

○本時の問題 (P 123 問題 4) を読み、課題を把握する。

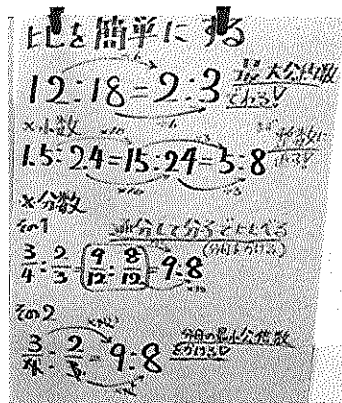
〈問題〉 次の比①②を簡単にしましょう。

① $1.5:2.4$ ② $\frac{3}{4}:\frac{2}{3}$

比を簡単にする方法をマスターしよう!

・ $1.5:2.4$ の比を整数の比に直すためには、どちらも 10 倍すればいい。そこからさらに最大公約数でわって...

④ $\frac{3}{4}:\frac{2}{3}$ の比を整数の比に直すためには、どちらにも 12 をかけて考えるといい。



比が小数や分数の場合でも、整数の比に直すことで比を簡単にするができる。

○ P 123 のたしかめ 4 を解く。

◎ドリルやプリントに取り組みさせて習熟を図る。

○本時の振り返りを記入する。

〈振り返りの視点〉

- ・今日の勉強で大切だと思ったこと
- ・できるようになったことや進歩したこと

【技能】

・等しい比の性質を利用して、小数や分数の比を簡単にするができる。(ノート・プリント)

視点 1 ② 【学びたい】

見通しに基づいて振り返りをさせることでメタ認知を促すとともに、次時への意欲や算数科における自己肯定感を高める。

○問題を読み（P124問題5）、課題を把握する。
 〈問題〉縦と横の長さの比が3：4になるように、長方形の形をした旗を作ります。横の長さを60cmにすると、縦の長さを何cmにすればよいでしょうか。

比と片方の量がわかっているときの、もう一方の量を求める方法を考えよう！

- 答えの見通しと解法の見通しをもつ。
 - ・答えは60cmよりは短いはずだ。
 - ・昨日まで勉強したことで使いそうなことは何かな？
 - ・等しい比の性質がつかえそうだ。
 - ・割合の考えは使えるかな？
- 旗の縦と横の比と、横の長さをもとに、縦の長さを求める方法について考える。
 - ・等しい比の性質の性質を用いて考えると、縦：横は3：4、実際の長さは60cmだから $3：4 = x：60$ だ。
 - ・割合の考えを用いて考えると、縦の長さは横の長さの $\frac{3}{4}$ 倍になっているから、式は $60 \times \frac{3}{4}$ になる。
- 自分が考えた方法についてグループで交流する。
- グループで交流した内容について、リレー説明で発表する。
 - ・等しい比の性質で考えました。分かっていることは縦：横と実際の長さが60cmということなので、 $3：4 = x：60$ として考えます。→等しい比の性質を使って考えると、 $4 \rightarrow 60$ に15倍になっているので、3にも15倍します。答えは45cmです。
 - ・割合で考えました。縦：横の比が3：4ということから比の値は $\frac{3}{4}$ になります。→縦の長さは横の長さの $\frac{3}{4}$ 倍ということがいえます。 $60 \times \frac{3}{4}$ で答えは45cmです。

比と片方の量がわかっているときには、等しい比の性質や割合の考えを使って、もう一方の量を求めることができる。

- P124たしかめ5を解く。
- 本時の振り返りを記入する。

〈振り返りの視点〉

- ・今日の勉強で大切だと思ったこと
- ・変化した自分の考え
- ・できるようになったことや進歩したこと
- ・友達のよかった点

○問題（P125問題6）を読み、課題を把握する。
 〈問題〉当たりくじとはずれくじの数の比が3：7になるようにくじを作ります。くじの数を全部で120個にすると、当たりくじの数は何個にすればよいでしょうか。

部分どうしの比と全体の量がわかっているときの、部分の量を求める方法を考えよう。

視点1①【考えたい】
 問題場面を整理することで、課題意識をもちやすくする。

視点1①【やってみよう】
 答えの見通しや問題に取り組む上で使いそうな既習事項を問いかけ、学級全体に共有させることで、算数が苦手な児童も最後まで意欲をもって取り組めるようにする。

視点2①【話したい】
 交流活動を見通しながら個人思考を行うことで、相手意識を高め、思考が深まるようにする。

【考え方】
 ・比が分かっている場合に、比の意味や性質をもとに、一方の量から他方の数量を求める方法を考えることができる。（発言・ノート）

視点2②【聞きたい】
 交流のゴールに説明リレーという活動を設定することで、聞くことの必要感をもたせ、しっかりと他者の考えを聞き取ったことにより課題解決のきっかけをつかませる。

視点1②【学びたい】
 見通しに基づいて振り返りをさせることでメタ認知を促すとともに、次時への意欲や算数科における自己肯定感を高める。

⑤ ※本時

⑥

- 答えの見通しや解法の見通しをもつ。
 - ・ 当たりくじがはずれくじよりも多くなることはない。半分以下。
 - ・ 前の時間みたいに等しい比の性質や割合の考えを用いてできそう。
- 当たりくじとはずれくじの比と、くじ全部の量を 120 にすることをもとに、当たりくじの数を求める方法について考える。
 - ・ 当たりくじと全部のくじの比は 3 : 10 になるから、 $3 : 10 = x : 120$ になるから、そこから等しい比の性質をつかって求めよう。
 - ・ 当たりくじの数は全体のくじの数の $\frac{3}{10}$ 倍になるから、 $120 \times \frac{3}{10}$ になる。
- グループで交流した内容について、リレー説明で発表する。
 - ・ 当たりくじと全部のくじの比を 3 : 10 として表しました。 $3 : 10 = x : 120$ になるから、そこから等しい比の性質をつかって考えます。→ 10 から 120 に 12 倍になっているので、3 を 12 倍して答えは 36 個です。
 - ・ 当たりくじと全部のくじの比を 3 : 10 として考えました。→ 比の値から、当たりくじの数は全体のくじの数の $\frac{3}{10}$ 倍になるといえます。 $120 \times \frac{3}{10}$ になり、答えは 36 個です。

部分どうしの比を合わせ、全体 : 部分の比を作ること
で求めることができる。

- P 125 たしかめ 7 に取り組む。
- 本時の振り返りを記入する。

〈振り返りの視点〉

- ・ 今日の勉強で大切だと思ったこと
- ・ 変化した自分の考え
- ・ できるようになったことや進歩したこと
- ・ 友達のよかった点

- 問題 (P 126 問題 7) を読み、課題を把握する。

比で学んだことを活用して、ゆみさんの入学時の身長を求めよう。
- ゆみさんの入学時の身長を求めるためにはどんな情報が必要なのかを把握し、比で表して考える。
 - ・ 実際の校門の高さと写真の中のゆみさんの身長と写真の中の校門の高さが分かればよい。
 - ・ $200 : x = 20 : 11.6$ になる。20 から 200 に 10 倍になっているから、11.6 を 10 倍して答えは 116 cm になる。
- グループでそれぞれが考えた方法を交流し、お互いの解き方について確認していく。

視点 1 ①【やってみよう】
答えの見通しや問題に取り組む上で使えるような既習事項を問いかけて、学級全体に共有させることで、算数が苦手な児童も最後まで意欲をもって取り組めるようにする。

【考え方】
・ 比が分かっている場合に、比の意味や性質をもとに、全体の数量から部分の数量を求める方法を考えることができる。(発言・ノート)

視点 2 ②【聞きたい】
交流のゴールに説明リレーという活動を設定することで、聞くことの必要感をもたせ、しっかりと他者の考えを聞き取ったことにより課題解決のきっかけをつかませる。

視点 1 ②【学びたい】
見通しに基づいて振り返りをさせることでメタ認知を促すとともに、次時への意欲や算数科における自己肯定感を高める。

視点 1 ①【やってみよう】
答えの見通しや問題に取り組む上で使えるような既習事項を問いかけて、学級全体に共有させることで算数が苦手な児童も最後まで意欲をもって取り組めるようにする。

【考え方】
・ 必要な情報を選択して比に表し、未知の数量を求める方法を考えることができる。(ノート)

⑦

	<p>○グループで交流した内容について、リレー説明で発表する。</p> <p>◎単元の学習を振り返っての感想を記述させる。</p> <p>〈振り返りの視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元1時間目にもった感想を思いだし、実際に問題7を解いてみてどうだったのか。 ・単元を終えての感想 ・比を日常で使えそうだと思う場面 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中に比を活用しようとしている。(発言・ノート) <p>視点2②【聞きたい】</p> <p>交流のゴールに説明リレーという活動を設定することで、聞くことの必要感をもたせ、しっかりと他者の考えを聞き取ったことにより課題解決のきっかけをつかませる。</p>
⑧	<p>○教科書P127のまとめ問題に取り組む。</p> <p>○プリント問題とドリルに取り組む。</p>	<p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比の値を求めたり、比を簡単にしたり、等しい比を作ったりすることができる。(ノート・ドリル)

視点1②【学びたい】
単元全体の中での自己の姿を振り返ることで、算数科における自己肯定感を高める。

5 本時の実際

(1) 本時の目標

- ・比が分かっている場合に、比の意味や性質をもとに、一方の量から他方の数量を求める方法を考えることができる。【数学的な考え方】

(2) 本時の展開 (5/8)

段階 (分)	○主な学習活動 ◎教師の働きかけ ・児童の活動	【】評価規準 () 評価物 ○留意点
導入 7	<p>○本時の問題を読んで場面を把握させた。</p> <p>〈問題〉縦と横の長さの比が3:4になるように旗を作ります。横の長さを60cmにするとき、縦の長さは何cmにすればよいでしょうか？</p> <p>◎旗の図を用いて、問題文から分かっていることを問いかけ、場面を整理した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦:横が3:4だ! ・縦の長さはわからないからXcmとして表すといい。 ・比と片方の量がわかっていて、もう一方の量がわかっていない! <p>○本時の課題を提示した。</p> <p>比と片方の量がわかっているときの、もう一方の量を求める方法を考えよう。</p> <p>○答えの見積もりと解法の見通しをもたせた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・等しい比の性質をつかえばできそう。 ・比の値を求めて割合の考えで解くとよさそう。 ・縦の長さは横よりも短くなりそう。 	<p>○活動時間を確保するためにプリントした問題文を用いた。</p> <p>○横の長さが片方の量で、縦の長さをもう一方の量とみる考え方について教師側から促した。</p> <p>視点1①【考えたい】 問題場面を整理することで課題意識をもちやすくする。</p> <p>視点1①【やってみよう】 答えの見通しや問題に取り組む上で使えるような既習事項を問いかけ、学級全体に共有させることで、算数が苦手な児童も最後まで意欲をもって取り組めるようにする。</p>

○個人思考で自分の考えをもたせた。

- ・等しい比の性質をもとにしたり，比の値を求めたりしながら旗の縦の長さを求めた。
- ・自分が考えた答えや，そう考えた根拠を簡潔にまとめた。

児童A (等しい比の性質)

	縦	横
3	4	60

$3 : 4 = x : 60$

$4 \times x = 60$
 $x = 60 \div 4$
 $x = 15$

60 は 4 の 15 倍だから 3 も 15 倍する。

式) 3×15

答え 45 cm

児童B (割合)

比の値	
3 は 4 の $\frac{3}{4}$ 倍だから 60 にも $\frac{3}{4}$ をかける	
式 $60 \times \frac{3}{4} = 45$	答え 45 cm

○小集団交流で考えを広げ，深まるようにした。

- ①同じ方法で考えた児童で集まり3～4人程度の小グループを作る。
- ②お互いの考えを交流し，グループとしての考えをまとめ，全体交流での発表に向けて準備をする。
- ③グループとしての考えをもとに，自分の考えについてノートに書き足したり，修正したりする。

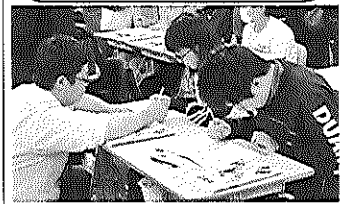
○全体交流を行い，自分と異なる考えにも知る機会をつくり，さらに考えが広がるようにした。

◎適宜説明を区切り，要点を確認しながらリレー説明を進めた。

- ・わたしたちは，等しい比の性質を使って考えました。縦：横の比と実際の横の長さが60cmということなので， $3 : 4 = x : 60$ として考えました。
 \Rightarrow 等しい比の性質を使って考えると，4から60に15倍になっているため，3も15倍します。答えは45cmです。
- ・ぼくたちは，割合の考えを使いました。まず，縦：横の比が $3 : 4$ ということから比の値は $\frac{3}{4}$ になります。
 \Rightarrow 比の値が $\frac{3}{4}$ なので，縦の長さは横の長さの $\frac{3}{4}$ 倍ということがいえます。60× $\frac{3}{4}$ で答えは45cmです。



視点2①【話したい】
 交流活動を見通しながら個人思考を行うことで，相手意識が高まり，児童一人一人の思考が深まる。

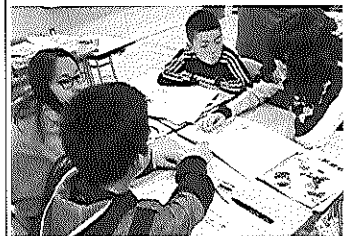


○つまづいている児童には，掲示物や言葉がけを通して前時までの学習を想起させた。

【考え方】

- ・比が分かっている場合に，比の意味や等しい比の決まりをもとに，一方の量から他方の量を求める方法を考えている。

(発言・ノート)



視点2②【聞きたい】
 交流のゴールにリレー説明という活動を設定することで，聞くことの必要感をもたせ，しっかりと他者の考えを聞き取ったことにより課題解決のきっかけをつかませる。

○比の相等関係で考えた児童がいるグループと割合で考えた児童がいるグループを指名した。

展開
26

○本時の学習内容についてまとめた。

まとめ
 比と片方の量がわかっているときには、等しい比の性質や比の値(割合の考え)を求むられる!

○P124たしかめ5に取り組ませた。



個人思考での色々な考え方をもとにして問題に取り組んでいた。

○自己評価を記入させた。

〈振り返りの視点〉

- ・今日の勉強で大切だと思ったこと
- ・友達の参考になった考えや良かったところ
- ・今日の勉強を通してできるようになったこと、レベルアップしたこと

か	り	返	り	心															
今	日	は	最	初	は	等	し	い	比	の	性	質	の	方					
で	お	め	た	け	ど	た	し	か	め	問	題	で	は						
割	合	を	や	っ	て	み	る	と	す	ぐ	に	あ	わ						
た	の	で				く	ん	の	や	り	方	は	い						
思	い	ま	し	た	。														

～振り返り～ (㊦)

問	題	を	最	初	は	。	割	合	の	方	で	や							
ら	う	と	し	た	け	ど	。	比	の	性	質	の							
方	が	わ	か	り	や	る	か	っ	た	で	す	。							
最	後	は	ど	う	も	あ	か	っ	た	の	で								
よ	け	っ	た	で	す	。													

【考え方】

- ・比が分かっている場合に、比の意味や等しい比の決まりをもとに、一方の量から他方の量を求める方法を考えている。(ノート)

○確かめ問題が終わった児童から自己評価を記入させた。

視点1②【学びたい】
 見通しに基づいて振り返りをさせることでメタ認知を促すとともに、次時への意欲や算数科における自己肯定感を高める。

終末
12

6 成果と課題

(1) 主体的な学びを生む学習活動

〔成果〕

- ・課題把握の場面では、問題文からわかっていること、聞かれていること、前時までの違いを整理することで、明確な課題意識を児童から引き出すことができ、「すること」の見通しをもたせることにつながっていた。
- ・既習事項を学級全体で共有をすることで、どの子も「どうやったら解けるかな?」「今日の課題を自分で解決できそうだ!」と問題意識を高めることができ、主体的な学び(展開の中の活動)につながっていた。
- ・単元を通した振り返りでは、7時間目に1時間目に記述させた振り返りを読み返させる中で、「最初は解けなさそうと思った問題が比を勉強して解けるようになった!」と自身の伸びを実感している様子が見られた。
- ・振り返りで記述する際の視点を提示したことで、児童が本時の学習内容や学びの姿に焦点を当てながら振り返ることができ、意欲付けやメタ認知につながった。さらに、振り返りの記述を教室に掲示し、他者に見せたり、活用したりすることで、振り返りの活動がその子どもを認めてあげる方法ともなっていた。

〔課題〕

- ・見通しのもたせ方により子どもたちの思考活動も変わってくるため、本時のねらいによって「何を、どこまで、どのように」見通しをもたせるのが大切である。
- ・子どもが書きたくなる振り返り活動の手立てを、さらに検証する必要がある。

(2) 思考力・表現力を育成する活動の工夫

〔成果〕

- ・子どもにとって学習形態【個人、ペア、トリオ、グループ】が表現に対する目的意識に影響していることが分かった。「人に見られるから、わかりやすいように書こう」「自分だけわかればいいから、式だけでいいや」など、相手意識と目的意識のある記述(根拠の記述)の習慣化が思考力と表現力を高めるといえる。
- ・小集団交流は対話の場面として、どんな意見もまずは受け入れるという活動になっていた。個人から集団へと学習形態を広げたことにもなあって、個人の理解も広がり深まりが見られたことから、小集団での交流が、個人の理解の深まりを大きく左右することが分かった。

〔課題〕

- ・全体交流の目的が、最終的にリレー説明をするという「発表すること」に意識が向かわないように、交流活動は目標達成の手段であると意識することが大切である。式や比の値が表す意味など、「なぜこう考えることができるのか」といった算数の本質的な部分に思考の焦点が当たるよう、教師が指示や発問、手立てを工夫する必要がある。

IV 成果と課題



1 主体的な学びを生む学習活動

2 思考力・表現力を育成する活動の工夫

研究の成果と課題について

今年度は、最終年度として研究テーマ「学ぶ意欲『～たい』を引き出す学習指導の実践的研究」のもと、研究を進め、検証授業を2本行った。

視点1「主体的な学びを生む学習活動」では、単元を見通した提示の仕方、記述による振り返り方について、視点2「思考力・表現力を育成する活動の工夫」では、目的意識や相手意識を明確にした指導の仕方について重点をおいて取り組んだ。

各視点の成果と課題については、以下のように明らかにすることができた。

視点1 主体的な学びを生む学習活動

成果

- ・今年度2本の検証授業ともに、単元を見通した提示を行った。国語科であれば、単元を貫く言語活動を設定し、前時までのつながりを意識させた学習展開を行った。算数科であれば、単元の最初の学習で、単元の最後に学習する活用問題を提示し、これからすること、していくこと、できそうなことなどをイメージさせた。これらの活動により、課題解決に向けて意欲的に学習に取り組む様子が見られた。
- ・単元を通して、1単位時間ごとに振り返り活動を継続して行った。記述の際の観点を提示したことで、したこと、できたこと、できるようになったことを実感させ、次時への学習意欲の高まりにつながられた。さらに、子どものつまずきや変容を把握し支援に生かすことができた。また、単元の初めと終わりの振り返りを行うことで、自己の変容を捉え、自信や学びの価値を実感することへつながられた。

課題

- ・1単位時間での見通しのもたせ方については、授業のねらいや子どもの実態に応じて、「何を、どこまで、どのように」行っていくのかをよく吟味し実践する必要がある。また、支援が必要な子どもへの手立ても事前によく検討し、見通しのもたせ方の工夫につなげていくことも大切である。
- ・振り返り時間を含めた終末の十分な時間の確保をするために、ICT機器やワークシートの活用の工夫（書くことの精選等）を行うなど、効果的な授業展開を考えていく必要がある。

視点2 思考力・表現力を育成する活動の工夫

成果

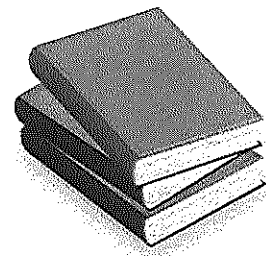
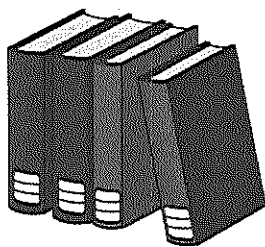
- ・ 単元を通して、1 単位時間において交流活動の場面を設定したことで、「自分の考えを他者に説明する」ことを見通した個人思考が習慣化し、「話したい」という意欲や「話せる」という自信だけでなく、自分の考えを簡潔に表現するなど思考力や表現力を高めることにつながられた。
- ・ 交流のねらいやポイントを発達段階に合ったものを分かりやすく提示したり、学習形態を工夫したりすることで、「だれに・何のために・どうすべきか」を理解し、相手意識や聞く意識を高めることができた。

課題

- ・ 交流を含めたそれぞれの活動の意図を指導者が事前によく吟味しおさえておくことが重要である。例えば、国語科であれば、「書くこと」を通して『読むこと』を深める、算数科であれば、「最終的にリレー説明をする」ことを通して『なぜこう考えることができるのか』という算数の本質の思考につなげることを意識した指示や手立ての工夫が必要であった。
- ・ 学習形態を含めた交流活動がより充実するためには、日々の授業の積み重ねが大切である。子どもの発達段階や授業のねらいに応じて、継続的に取り組む必要がある。より充実した価値ある活動へつながられるよう、教科の特性に応じた子ども個々や学習集団の把握、教材研究や指導力向上に向けた地道な取組が大切である。

参考文献リスト

- 小学校学習指導要領 文部科学省
- 中学校学習指導要領 文部科学省
- 初等教育資料 2014年4月 文部科学省教育課程課・幼稚教育課 編 東洋館出版社
- 初等教育資料 2014年6月 文部科学省教育課程課・幼稚教育課 編 東洋館出版社
- 初等教育資料 2015年4月 文部科学省教育課程課・幼稚教育課 編 東洋館出版社
- 初等教育資料 2015年5月 文部科学省教育課程課・幼稚教育課 編 東洋館出版社
- 初等教育資料 2015年12月 文部科学省教育課程課・幼稚教育課 編 東洋館出版社
- 単元を貫く言語活動の全てが分かる！小学校国語科授業&評価パーフェクトガイド
水戸部修司 著 明治図書
- 算数授業研究 VOL. 97 筑波大学附属小学校算数研究部 東洋館出版社
- 秋田県式「授業の達人」10の心得 矢之浦勝之 著 小学館
- 言語活動で展開する！秋田県式学力UPの授業づくり 矢之浦勝之 著 小学館
- “算数学力・日本一”への挑戦 尾崎正彦 著 明治図書
- 算数の授業で「メタ認知」を育てよう 重松敬一 監修 日本文教出版
- メタ認知の概要 奈良教育大学ホームページ
- 新理科活用力をつける新教材の研究授業のつくり方・見方 松本健一 著 明治図書
- 指導と評価 2016年12月 日本教育評価研究会 図書文化



研究協力員

佐 治 慎 吾 (初山別村立初山別小学校)

佐 藤 元 希 (羽幌町立羽幌小学校)

大 石 晴 之 (留萌市立北光中学校)

福 原 富 子 (天塩町立天塩中学校)

留萌管内教育研究所

所 長 石 田 正 樹

主任研究員 明 石 貴 宣

研 究 員 豊 崎 東 洋 (～H29. 8)

寺 澤 寛

野々村 光 史

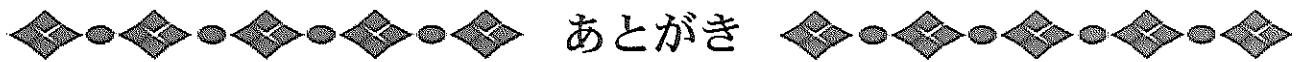
山 本 泉 美

鴻 上 優 美

本 間 聖 隆

四 宮 詠 子

事 務 員 按 田 由 香



あとがき

研究主題「学ぶ意欲『～たい』を引き出す学習指導の実践的研究」のもと、最終年度の研究のまとめの年として、2名の研究協力員の先生に検証授業を行っていただきました。

今回、その成果と課題を『研究紀要』第23号としてまとめることができました。

また、紀要発行に当たり、各関係機関にも多大なお力添えをいただきましたことに対しても、重ねてお礼申し上げます。本書を多くの先生方に手にとっていただき、日常の授業実践、個人研修、校内研究においてご活用いただければ幸いです。

来年度は、これまでの研究の成果と課題や管内教育の現状と課題をふまえた上で、新たな研究を設定し取り組むことになり、多くの成果が得られるよう努力してまいります。今後とも当研究所に対しまして、変わらぬご指導とご協力のほど、宜しくお願いいたします。

平成30年3月

研究紀要 第23号

学ぶ意欲「～たい」を引き出す学習指導の実践的研究

発行日 平成30年3月
発行所 留萌管内教育研究所
〒077-0033 留萌市見晴町2丁目27番地
Tel/Fax (0164) 42-2635 (直)
E-Mail ruken@educet.plala.or.jp
U R L <http://ruken.hs.plala.or.jp>

発行者 所長 石田 正樹
印刷所 白鷗印刷株式会社
〒077-0044 留萌市錦町2丁目3-20
Tel (0164) 42-111
